

令和7年度 白鷺中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	195	52	44	8.0	12.8
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	476
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	186	62.9	47.9	52.3	45.5	53.0	7.4	7.4	11.9	10.1	7.0
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4

※

令和7年度 白鷺中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

<国語>「書くこと」の正答率は大阪市を上回っているが、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の正答率は下回っている。自分の考えを要約して文章に表記する学習に効果がみられる一方で、古文や和歌をはじめ短い言葉で情景や心情を表した作品に対する読み解力には課題がある。また「対話的な学習」が、タブレット等の活用によりいったん文字に変換されて行われることにより、瞬発的な言葉のやりとりが不足する傾向がうかがわれる。活用方法の工夫が必要である。<数学>「データの活用」の正答率は大阪市を上回っている。教科横断的な学習の中で、図・表などの統計を活用した考察を行ったことの効果がうかがえる。他の3領域の正答率はすべて大阪市を下回っている。「数と式」では単に基本練習をくり返すだけでなく等式の変形を論理的に説明できる力の育成が必要である。「関数」では関数の意味とプログラミングをリンクさせながら、自ら文章題を作成させるような力を身につけさせることができることが課題である。また、3D画像を活用して図形の移動や回転を視覚的にとらえて理解を深めさせる必要がある。

○3年チャレンジテスト

<国語>「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」についての正答率が相対的に高い。「リーディングスキルテスト」や「よむYOMUワークシート」の取り組みにより、制限時間内で活字を読むトレーニングの効果が表れてきている。<社会>評価の観点では「知識・技能」が低い。相対的に高い「思考・判断・表現」の力を知識・技能の獲得に結びつける指導方法の工夫が課題である。<数学>全国学力・学習状況調査と同様に「データの活用」の正答率が相対的に高い。教科横断的な学びの成果が少しずつ表れてきている。<理科>「生命」の領域は大阪府を上回っている。防災学習・環境学習から身近な生物への興味・関心が高まっているようすがうかがえる。<英語>「書くこと」の正答率が大阪府を上回っている。話し合い活動から自分の考えを書いてまとめる指導が良い影響を与えている。授業での音読の指導方法に一層の改善を加えたい。

【今後に向けて】

○「リーディングスキルテスト」と「よむYOMUワークシート」の継続活用。

○古文や和歌などの短い言葉で情景や心情を表した作品のに対する読み解力の育成。

○瞬発的な言葉のやり取りのトレーニング。

○教科横断的な学習の一層の推進とカリキュラム連携。

○数学における文章題の作成。

○物理・化学を生活や防災と密接に関連させるような単元の工夫。

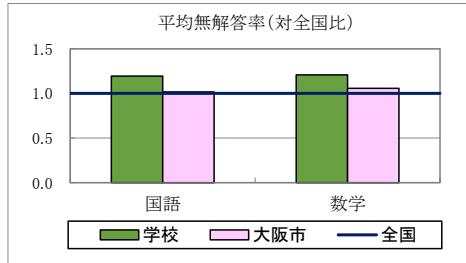
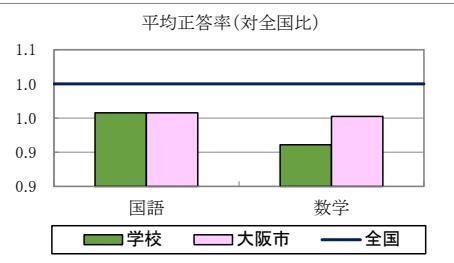
**令和7年度 白鷺中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	52	44
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

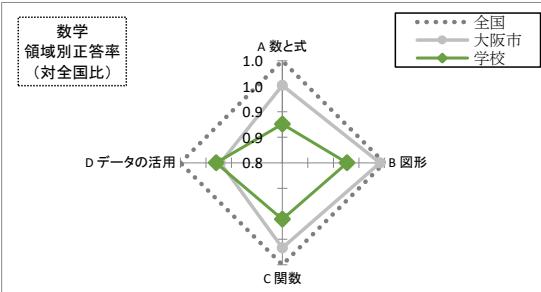
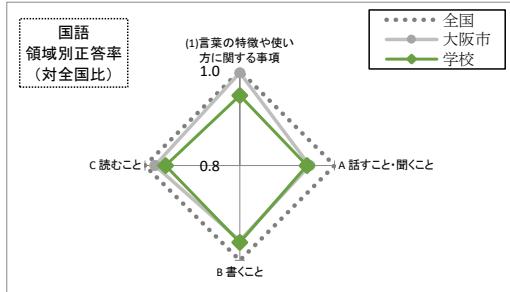
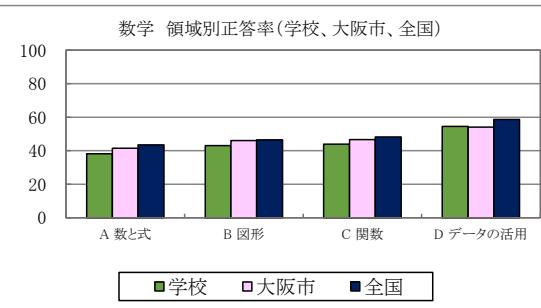
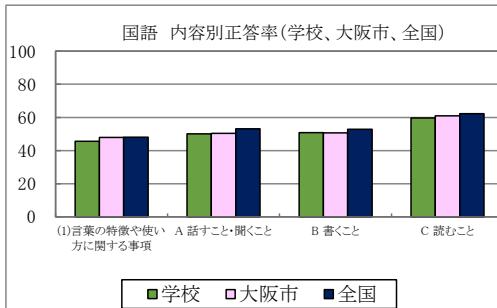
平均無解答率(%)	
国語	数学
8.0	12.8
6.8	11.2
6.7	10.6



【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	45.6	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	50.1	50.4	53.2
B 書くこと	5	50.8	50.6	52.8
C 読むこと	3	59.6	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	38.1	41.4	43.5
B 図形	4	43.1	46.1	46.5
C 関数	3	43.9	46.6	48.2
D データの活用	3	54.5	54.0	58.6

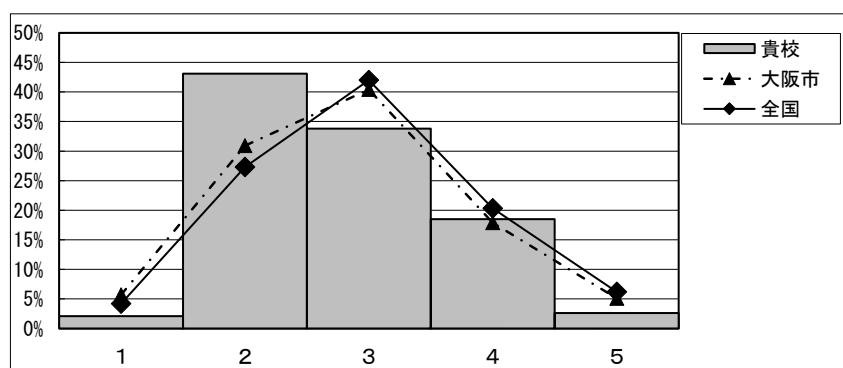
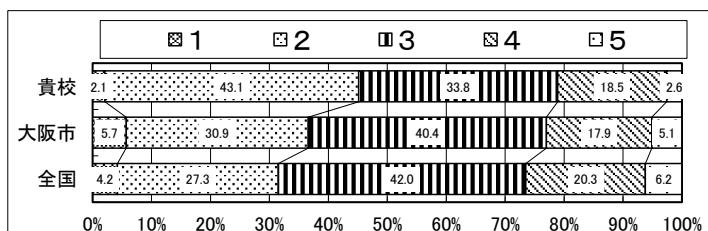


令和7年度 白鷺中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	476
大阪市	489
全国	503



令和7年度 白鷺中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

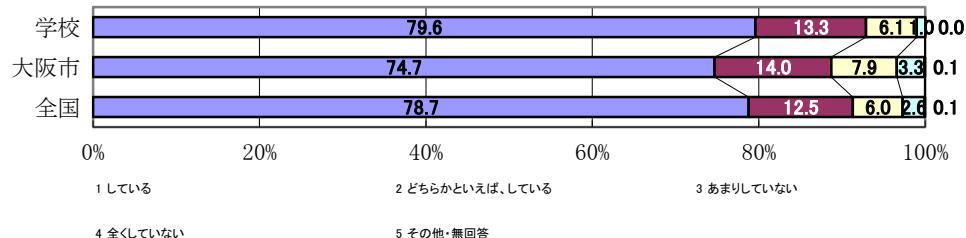
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 □8

質問番号
質問事項

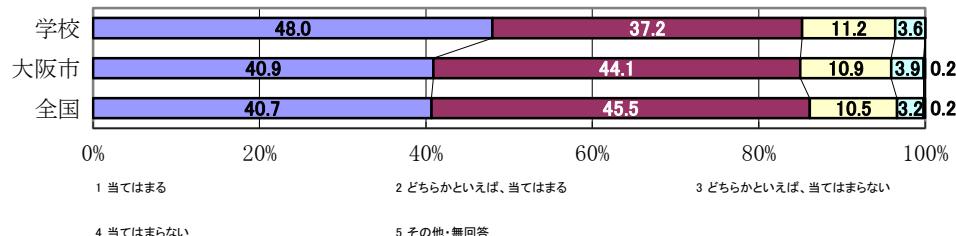
1

朝食を毎日食べていますか



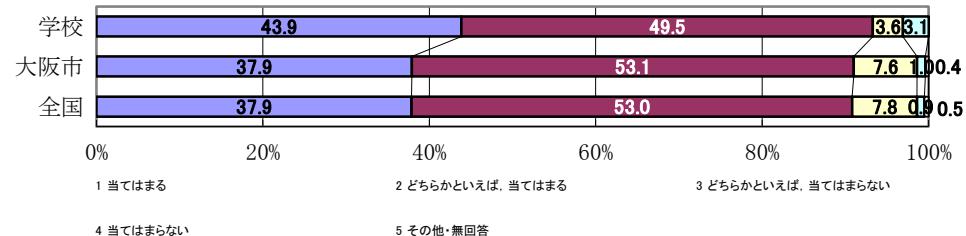
5

自分には、よいところがあると思いますか



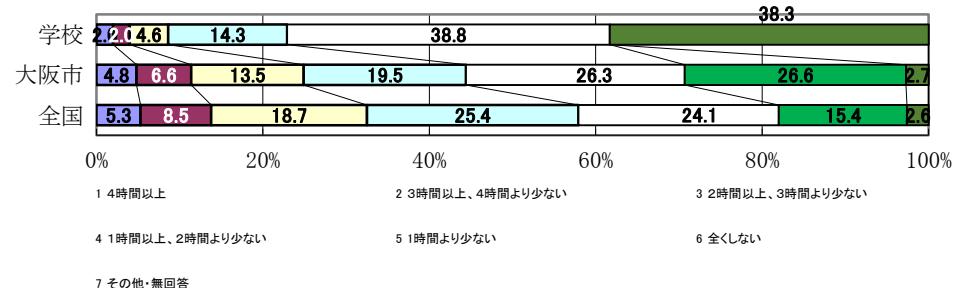
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



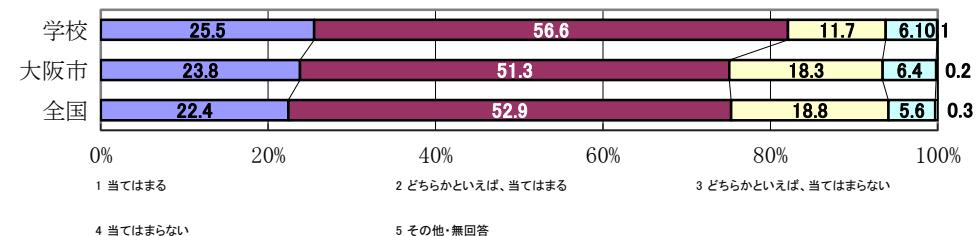
19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



令和7年度 白鷺中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

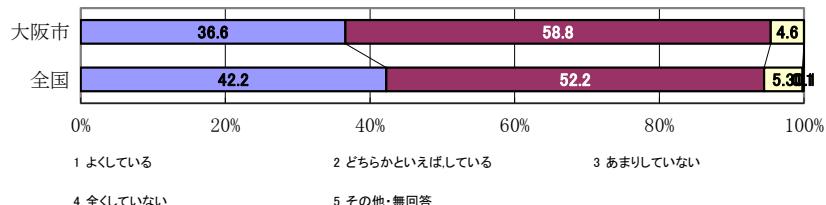
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

14

教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

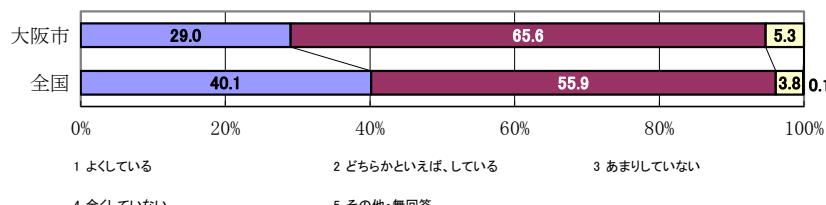
学校 「よくしている」を選択



15

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

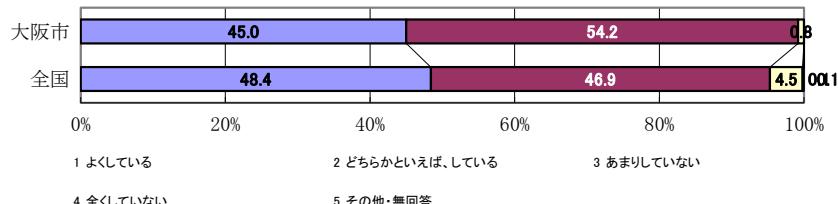
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

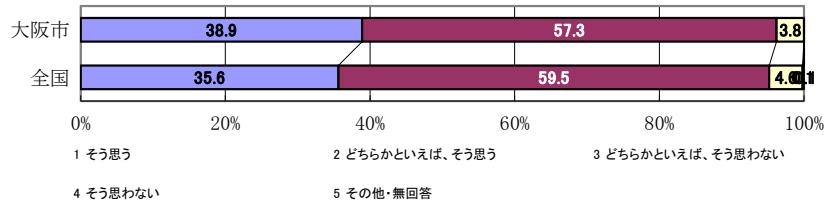
学校 「よくしている」を選択



28

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



57

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

